

2020/11/21(土) 南木曾岳 (3 百名山・信州百名山)

メンバー：L 辻、福田、F、A、I (非会員 3 人)

御岳、駒ヶ岳と共に「木曾三岳」と呼ばれている信仰の山、南木曾岳に行ってきた。別名、金時山とも呼ばれ、古くは山岳修験の山だったようだ。

駐車场上段は満車で広く開いていた路肩に停める。

金時の洞窟のある登山口までは林道。花崗岩が崩れて砂利状になった林道は歩きやすい。

分岐から時計回りの一方通行で上る。高野槇の巨木が林立する林を過ぎると急登の木製階段が続く。前日の雨で滑り易く、傷んだ箇所も多々あり、慎重に歩を進める。階段が多いとの情報は得ていたが、山頂近くまでこれでもかというくらい階段と梯子が延々と出てきて正直へきえきとしてしまった。木が豊富な木曾だからなのでしょうが、よくもまあこんなに沢山設置したものだと思ってしまう。三角点のある山頂は展望もなく、早々と出発して展望台へ向かう。

展望台は巨大な大岩の上であり、よじ登って展望を楽しむ。御岳、乗鞍が快晴の青空の下に良く見え、蘭の里も良く見えた。木曾路の部落は山間の谷間に点在しているのが良くわかる。

避難小屋上部の天望場台にはベンチがいくつか設置され、何組かのパーティーが思い思いに休憩中であった。ここからは御岳、乗鞍、南アルプス、中央アルプスが良く見えた。ここでの大休憩では吹き上げてくる北風が冷たく、食べているのに寒くて手が凍えてしまった。

笹原の下山道に入るとぽかぽかの日差しに包まれ、北斜面との違いに驚く。摩利支天展望台で巨岩によじ登るとどっしりとした恵那山が良く見えた。巨岩の下は切り立った岩場で目がくらむ。この後の下山道は劇下りで、木製の梯子が延々と出てきたが、南斜面のおかげで乾いており助かった。標高差 710m くらいではあったが、登りも下りも超が付くくらいの急登の階段地獄で神経がすり減りたくたになってしまった。帰路は男滝、女滝を見学。巨木の檜、さわら、あすなろ、高野槇、ねずこ、などの木曾五木を見上げながら識別を試みた。あすなろと高野槇は確認できたが檜、さわら、は木肌では判別できず。葉脈の違いも確認の仕方が分からずで、括り付けられたプレーを確認するのみで終始した。

上段の駐車場はがらがらになっていたが、下段の駐車場はほぼ満杯。結構人が入った模様。

時計回りの一方通行になっているため、そんなに人が入っているとは思わなかった。

一日中快晴の秋晴「ゆったり一な昼神」でお肌がつるつるになり、大満足の楽しい山行になった。

後日、自分たちの下山後に滑落事故があり 64 歳の男性が亡くなったことを知る。梯子を踏みはずしたのだろうか？山は楽しみや癒しを与えてくれる場所ではあるが、どんな山でも危険は隣り合わせであることを思い知る。常に慎重でなければと改めて思う。

天気：快晴

【コースタイム】 あららぎ

07：40 南木曾山麓蘭キャンプ場登山口（出 8：00）～8：40 金時の洞窟～

10：10 南木曾岳山頂～展望台～10：40 避難小屋上展望台 大休憩（出）11：20～

11：40 摩利支天第二展望台～13：55 蘭キャンプ場登山口

御岳・乗鞍岳



下から見た南木曾岳



延々と続く階段と梯子

男滝

女滝



## 【参考】 檜とサワラの区別の仕方

国立天文台・天文情報センター

サワラ 葉っぱの裏の白い文様が「H」又は **蝶々(X型)**

ヒノキ 葉っぱの裏の白い文様

が「Y」

「あら、エッチ(H)！サワラないで！」

「あら、卑猥(HY)なこと言わな

いで！」

木肌は杉に近く大人しい感じ

木肌はごつごつと荒い



アスナロの木と葉っぱ



